

研究結果説明書（事後）

作成日：令和5年6月20日

研究種別		総理研研究				
研究課題名		山梨県固有のデザインソースの集積と「山梨らしさ」を付加価値とした製品等の開発に関する研究				
研究期間		R3年度 ～ R5年度（3か年）				
研究体制	研究代表者（所属）	串田賢一（産業技術センター）				
	共同研究者（所属）	佐藤博紀・秋本梨恵・中村卓・保坂響（産業技術センター），郷健太郎・木下雄一朗（山梨大），近藤暁子・小畑茂雄・丸尾依子・海老沼真治・中野賢治・松田美沙子・茶園紘己（県立博物館），齊藤初美（県立文学館）				
研究予算		R2年度 6,246千円	R3年度 3,750千円	R4年度 3,043千円		合計 13,039千円
<p>研究成果</p> <p>*概要を、簡潔に300字程度で記載して下さい。</p> <p>*得られた成果、ならびに成果の発表状況を、研究目標に対応させて、具体的に箇条書きで記載して下さい。</p> <p>*図表等を用いたより詳細な説明を、補足資料として添付して下さい。</p>		<p>概要</p> <p>本県の地域、地場製品のブランディングをデザインの視点から推進する新たな取組として、①地域固有のデザイン資源の掘り起こし～コンテンツ化～デザインデータベースづくり、②付加価値の源泉となる「山梨らしさ」の構成要素の解明、③「山梨らしさ」を織り込んだ新たな名産となる地場製品の企画・デザイン～試作の3点に取り組んだ。</p> <p>①では、900点あまりの資料のデジタルデータ化を行うとともに、デザインデータベースの改修～公開を開始した。②では、「山梨らしさ」を紐解くキーワードを特定するとともに、画像の山梨らしさを評価するAI評価モデルを作成した。③では、地元の製造技術を用いて新たなプロダクト2点をデザイン～試作した。</p>				
		<p>得られた成果</p> <p>1. 地域固有のデザイン資源のデジタルデータ化</p> <p>(1) 「文字」のデジタルデータ化</p> <p>現代のデジタルフォントに依らない特徴的な店舗看板など文字資料を取材し154点をデジタルデータ化した。また、その他資料（物品・文様など）120点を新規にデジタルデータ化した。</p> <p>(2) 郷土民俗資料群「甲州文庫」の資料データ化</p> <p>資料群の中から広告、菓子袋、玩具などデザイン的に特徴的な資料を選択し、661点をデジタルデータ化した。</p> <p>(3) デザインデータベース「YAMANASHI DESIGN ARCHIVE」の改修～一般公開</p> <p>インターフェースを中心とした改修を行い、上記のデータを含め1,133点を登録し、R5.10.27から一般公開を開始した。</p>				

	<p>2. 付加価値を生む「山梨らしさ」の解明</p> <p>(1) 人文科学面からの取組 民俗・歴史（近世・近現代）、美術史から「山梨らしさ」の個別研究を行うとともに、現代の子供達が描く山梨の絵画（1,133枚）の分析を行い、過去から現在に共通する山梨県民の気質・県民性のキーワード6つを特定した。これらは、従来言われてきた「山梨観」とは全く異なるものとなった。</p> <p>(2) 感性工学面からの取組 本県の景観画像に対するイメージ調査・分析（20~75歳の男女900名／120画像／18印象語対／5段階のSemantic Differential (SD) 尺度）から、本県風景のイメージの大部分を説明する因子は4つであること、また、「山梨らしい」として好意的に評価されるキーワード4つを明らかにした。</p> <p>(3) 深層学習面からの取組 (2) の因子分析で使用した風景画像と分析結果として得られた因子得点を教師データとして学習を進め、人が行う風景画像の評価に近い評価をするAIモデルを作成した。</p> <p>3. プロダクトの試作開発 「山梨らしさ」を織り込んだプロダクトの試作開発として、本県の郷土料理および特産品にちなんだプロダクト2点をデザイン～試作した。</p> <p>(1) ほうとう用鉄鍋（鋳造） (2) ハンドジュース（金属加工）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
研究内容の変更	なし
研究成果活用の方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ デザインデータベース「YAMANASHI DESIGN ARCHIVE」は Web で一般公開中。（https://design-archive.pref.yamanashi.jp/） → デザインソースの利用（7件 38点の利用（R6.7現在）） → NHK WORLD「Design & Stories」の番組取材 ○ 「山梨らしさ」の研究成果について、共同研究機関である山梨県立博物館、山梨大学がそれぞれ論文投稿を進行中。 ○ 試作した「ほうとう用鉄鍋」については、企業から事業化の希望が出ており、意匠出願をはじめとして事業化支援を開始。
継続研究計画	成長戦略研究「山梨らしさ」を評価する感性評価モデル構築に適した学習画像に関する研究（R7～8年度）